

中村利雄イベント学会新会長のご紹介 イベント学会副会長 福井昌平

本年2月8日、イベント学会会長の堺屋太一さんが急逝されました。昨年12月6日に開催されたイベント学会研究大会と、その前後に開催された交流会に元気に参加されていたので、本当に驚愕いたしました。イベント学会の会則では、現職会長の死を想定していませんでしたので、ご葬儀でお見送りした後、「会長は、理事会において互選する」という学会会則に基づいて、臨時理事会を開催し後継会長問題を検討致しました。

この臨時理事会において、「イベントロジーの多方面への広がりと専門力の多様性を踏まえて、学会員だけでなく広い視野で後継会長候補を検討する」「学会員による自薦他薦に基づく会長候補者を検討し、理事会に推戴する推戴委員会を組成する」の2点を定め、野川副会長兼事務局長、橋爪副会長、福井副会長、及び上代理事兼事務局次長の4名で推戴活動に入り、会長候補としてイベント学会会員の中村利雄さんを推戴させていただきました。本件は、6月10日開催のイベント学会年次理事会・総会にて、満場一致で採択され、中村利雄さんがイベント学会第三代会長に、正式に就任されました。

中村利雄さんのご経歴について、私の方から、ご紹介させていただきます。
昭和21年7月22日生まれ、名古屋市出身です。名古屋大学法学部卒業後、通商産業省に入省され、大臣官房総務審議官、貿易局長、中小企業庁長官を歴任された後、2013年10月に、財団法人2005年日本国際博覧会協会（愛称／愛・地球博）の第三代事務総長に就任され、愛・地球博の事業的大成功をマネジメントされました。又、愛・地球博は21世紀万博としての新しい推進モデルを提示したと、国際博覧会条約事務局総会で、万博史上初の「賞賛の決議」を受けられ、それ以降の国際博覧会ムーブメントの国際的中核メンバーの一人として、引き続き大活躍されています。
愛・地球博終了後は、日本商工会議所・東京商工会議所の名専務理事を約8年間務められた後、現在は、公益財団法人全国中小企業振興機関協会の会長として、引き続き、日本の産業振興の第一線で活躍されています。

さて、イベント学会が対象とするイベントロジー分野でのご活躍についても、触れさせていただきます。

- 愛・地球博の理念継承と発展事業を推進されている、一般財団法人地球産業文化研究所の評議員として、愛・地球博以降のすべての国際博覧会、日本政府出展事業への協力と貢献を、継続して推進されています。
- 上海に設立された、ワールド EXPO ミュージアムの理事として、万博の歴史的発展と意義の啓発普及、及び万博ムーブメントの育成に活躍されています。
- イベント学会もお世話になっている、一般社団法人日本イベント産業振興協会が推進する、経産大臣賞を含む「イベントアワード」の審査委員長として、日本を

元気にする優れたイベントの顕彰と、イベントの質的レベルの向上に資する受賞システム構築に貢献されています。

- その他、多くの公益財団法人や一般財団法人の理事・評議員として、多くのイベント活動やボランティア活動及び社会貢献活動に取り組んでおられます。

今、世界も日本も、2030年を目標とする国連のSDGs運動に取り組んでいます。持続可能な社会づくりや地域づくりが大きなテーマとなって来ました。イベント産業の振興においても、これからのイベントロジーの探求においても、SDGsムーブメントとの関連はさらに深くなっていくでしょう。

国連のSDGsムーブメントの前身は、2005年にスタートした、国連ESDの10年キャンペーンです。持続可能な開発の為に「教育」に光を当てた国際運動でした。実は、愛・地球博は、この国連ESDの10年キャンペーンのキックオフイベントに認定されていたのです。SDGsのスタート地点は、愛・地球博だったのです。イベント学会は産官学市民協働視点をもったソーシャルプロデュース型の新しいイベントの魅力を探求する時代に入ったと思います。イベント学会の仲間は、中村新会長と一緒に、SDGs時代の新しいイベントロジーの発展に挑戦したいと思います。

中村会長、どうか宜しく。